

令和4年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「小学校と中学校が連携した一人一台端末の活用」

八潮市教育委員会

事例1

小中一貫教育推進検討部会「ICT部会」の新設

八潮市小中一貫教育推進委員会



教職員全体の約2割 102名で構成

八潮市では、小中一貫教育を推進するため、小中一貫教育推進委員会及び6部会を設置し、研究を進めている。令和4年度に、一人一台端末の有効活用についての研究を深めるため、市内各小・中学校の教員から構成される「小中一貫教育推進検討部会 ICT部会」を新設した。

小中一貫教育の観点から小・中学校で共通して指導していくことの検討や授業研究等を通して、授業におけるGIGA端末の有効活用について研究し、GIGA端末等の活用による情報活用能力の育成を推進している。

事例2

小中一貫教育推進検討部会「ICT部会」の取組～八潮スタンダード×ICTの作成～

八潮スタンダード×ICT (ver.1)

授業者は八潮スタンダードの「考える」「深める」の段階で授業支援ソフトのスクリーンタクト、「まどめる」学習のより深い、定着の段階で「グループワーク」の活用を推進することで、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等の育成が期待できます。 ※必ずしも各時間使用しなくても構いません。

つかむ・見通す	課題の明確化・学習意欲の喚起・解決の見通し	ポイント
NHK for School	<ul style="list-style-type: none"> T: NHK for School等の動画等を活用し、課題意識と学習意欲の喚起につなげる 	ゲームワーク (アンケート)
考える	思考の可視化 (思考の整理・個別の支援・意見表示)	ポイント
school Takt	<ul style="list-style-type: none"> T: スクリーンタクトで課題を一斉に配付する 共同研究 (他の解答を見ることなど) 共同編集 (他の解答に書き込みができる) の可否を選択 自分の考えをスクリーンタクトに書き込む インターネットで閲覧する 互いの意見を参考にする (共同研究) 困っているから @ 機能で意見表示できる T: 一覧画面で全体を把握する 表示している児童主に個別支援 (画像又は動画から) 	<ul style="list-style-type: none"> スクリーンボード (共有ホワイトボード) グループワーク ゲームワーク (アンケート)
深める	学びの個別最適化 (共有・比較・学び合い)	ポイント
school Takt	<ul style="list-style-type: none"> T: 共同研究・共同編集モードに切り替えて対話的な学びを実施する (ペア、グループ学習等) C: 学習者同士が互いの解答を見合ったり、よりよい解答を見つけたら自分の考えを修正したりする 自分の考えを見ながら説明する 協力して一つのファイルを作成できる 互いの意見と比較しながら自分の意見を探る T: 電子黒板に個人・グループの意見を表示し、全体で共有する C: グループで話し合ったことを全体につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> スクリーンボード (共有ホワイトボード) ゲームワーク (アンケート)
まどめる	学びの個別最適化	ポイント
ゲームワーク (アンケート)	<ul style="list-style-type: none"> C: より固いものをグループワークに入力する より固いものから変化を見とる 進捗状況に応じて解答の表示を個別・選択式・定形式 1次時の学習に活用することも可能 C: 練習問題 (ドリル)・ワークシートに取組む 学習内容・理解度に応じて練習問題で学習の定着を図る 	ゲームワーク (アンケート)
ポイント	授業で事前に「授業支援教材」動画を事前に学習の場で実施し、学校の授業では学習内容に関わる重要課題などを中心に行うもの、「まどめる」に時間をかけることができます。	ICT活用サイト
反転学習		各種アプリの操作方法・活用方法を工夫して活用する工夫を凝らすこと。ご活用ください。

八潮スタンダード×ICT (ver.1) について

八潮スタンダード (目指すべき授業展開モデル) に授業支援ソフトを位置づけ、教員がICTを活用した授業を行う際の基準を示したもの。市内のすべての教員がこのスタンダードに則った授業展開を必要に応じて実施できるようにしていく。

八潮スタンダード×ICT (ver.1) の内容

八潮スタンダードの「考える」「深める」の段階で授業支援ソフトのスクリーンタクト (市内で最も活用が多いソフト) を中心に位置づけた。スクリーンタクトは、教師や児童・生徒同士が互いの意見を見合ったり、グループで話し合ったりすることに有効なソフトで、これを活用することで「主体的・対話的で深い学び」にもつなげることができる。

事例3

八潮市GIGAスクール構想授業公開

電子黒板、デジタル教科書を使用して課題の確認。	スクリーンタクトを使用して自力解決。	電子黒板にスクリーンタクトを写して全体で共有。

授業支援ソフトを活用した「八潮スタンダード」での授業について協議し、授業内における一人一台端末の有効な活用方法について共通理解をすることができた。

令和4年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「教科等の目標を達成するための一人一台端末の活用」 八潮市立大曽根小学校

実践1：校内授業研究会（第6学年） 令和4年7月1日（金）

○教科名 【算数】 ○単元名 【割合の表し方を調べよう】

○身に付けたい力

発表を苦手とする児童の意見や考えを、全体に広めるツールとして活用し、友達とコミュニケーションをとりながら主体的に取り組む態度を育てる。

○効果的な ICT 端末の活用

「まなびポケット スクールタクト」の活用を通して、自分の考えを共有したり、友達の考えから共感、発見したりすることで、多様な考えに触れる。

〈まなびポケット スクールタクトとは〉

・学習進捗や課題配付状況など児童のアクションをタイムラグなく把握できる、授業支援クラウド。

○実践内容

児童間の意見の交流



練習上げ時の比較検討

【ICT 機器活用の成果】

- ・児童一人一人の考えの把握の簡略化が図られ、練習上げの際の比較検討の充実がなされた。
- ・児童同士の交流の活発化につながった。

実践2：校内授業研究会（第1学年） 令和4年11月18日（金）

○教科名 【算数】 ○単元名 【ひきざん】

○身に付けたい力

適用問題における習熟の効率化を図る。

○効果的な ICT 端末の活用

「まなびポケット e-ライブラリ」の活用を通して、自身の課題にあった問題を選択し、学習の個別最適化を図る。

〈まなびポケット e-ライブラリとは〉

・AI型ドリル、豊富なコンテンツにより児童の主体的な学びをサポートする学習支援サービス。

○実践内容



課題の選択・習熟



個別支援の最適化

【ICT 機器活用の成果】

- ・児童一人一人の学習意欲の向上へつながった。
- ・自動採点機能により、児童の苦手とする部分を容易に把握することができ、適切な支援につながった。